

古川なおき 第120号 レポート

自由民主党横浜市議会議員 古川なおきの政務調査報告

一月刊一 2013年12月5日



道徳教育の大切さ

お元気ですか！

早いもので今年も師走となりました。振り返ると昨年の12月から衆議院と参議院の国政選挙、横浜市長選挙など大きな選挙が三回もあり、対応に追われた一年間でもありました。来年は「がん対策推進条例」や「財政健全化条例」など、いくつかの政策条例の提案を予定していますので、じっくりと政策立案に取り組みたいです。

●道徳教育の教科化

さて、文部科学省の有識者会議「道徳教育の充実に関する懇談会」は12月2日、小中学校の道徳を「特別の教科」とする報告案をまとめました。報告書は年内に下村文部科学大臣へ提出され、年明けから中央教育審議会で検討し、2015年度に教科化となる見込みです。

現在、道徳教育は正式教科ではない「道徳の時間」として、小中学校で年間35時間教えられています。（小1は34時間）報告書では、正式な教科ではないために、他の教科に比べて軽んじられているとしています。

横浜市でも文部科学省に指定された「心のノート」や市教育委員会が独自に作成した副読本「生きる」を使用して道徳教育を行っていますが、昨今のいじめや不登校など、青少年の状況を考えると、今まで以上に道徳教育に力を入れなければならないと思います。重要なのは、どのように道徳を教えるかであり、有識者会議の中の議論にもあったようですが、自ら努力して困難を乗り越え世の中に貢献した日本人をはじめ、世界の偉人伝を教材にすべきであると思います。また、教科化になるのであれば、教科書をはじめ映像や副読本などにも工夫が必要で、現場の先生でもしっかりと道徳を教えることができる教材にしなければならないと思います。

●小説「永遠の0」

ところで、先日、作家の百田尚樹氏のベストセラー「永遠の0」を読みました。零戦パイロットのことが書かれた小

説です。戦争という人類で最悪の出来事をただ忌み嫌うのではなく、戦争を回避し、平和な世の中にするためにも68年前の戦争をありのままに直視する必要があると考えさせられました。戦争に対する歴史観は様々でも、多くの先人たちの犠牲の上に今の私たちが生かされている事実だけは誰も否定できないと思います。昨今はストレス社会や無縁社会などといわれていますが、戦時中の苦勞に比べれば、私たちが悩んでいる苦勞は苦勞ではないように思います。戦争や震災で犠牲になった方々のためにも、今を生きる私たちは、もっと人生を大切にしなければならないと思います。小説「永遠の0（文部科学省推薦）」は映画化され、今月21日から全国の映画館で公開されます。

過去の古川なおきレポートにも書きましたが、私の愛読書に森信三先生の「修身教授録」があります。戦前に子どもたちに教えられていた修身は戦後廃止されましたが、道徳教育を考える上で大変参考になりますので、「永遠の0」同様「修身教授録」も是非みなさまにお読みいただきたいと思います。（2冊とも長編ですが、お正月休みに是非！）

●「自立する心」「利他の心」

安倍政権で何とか経済を立て直しても、人の心が変わらなければ本当の意味で日本は再生できないと思います。他力本願で何でも他人の責任にするのではなく、自分だったらどうするかを考え「自立する心」「利他の心」を持った人が多くなれば、社会はより良くなると思います。経済だけではなく、我が国の道徳教育にも力を入れている安倍内閣に期待するとともに、自分もしっかりと道徳教育を語るに値する人間になれるよう精進していきたいと思っています。

皆様のご意見をお待ちしています。

今年も古川なおきレポートをお読みいただき、ありがとうございました。どうぞ、来年も良いお年をお迎えください！

横浜市議会議員 古川なおき

古川レポート編集部による「2013年横浜市10大ニュースと旭区5大ニュース」

横浜市10大ニュース

- 1位 第5回アフリカ開発会議が横浜で開催、アフリカ51か国の国家元首・首脳級が来訪
- 2位 市長選で、林市長が再選、2期目のスタート
- 3位 東京五輪が2020年開催決定！横浜で日産スタジアムでサッカーを開催予定
- 4位 谷口教授が横浜市立大学がips細胞から血管構造を持つヒト臓器を創り出すことに成功！
- 5位 「よこはま地震防災市民憲章」を制定、自助・共助の大切さを共通認識に
- 6位 栄区が安全・安心の世界基準「セーフコミュニティ」の認証をWHOから取得
- 7位 みなとみらい線、東横線と副都心線が直通運転を開始、横浜と埼玉が繋がる
- 8位 横浜ビー・コルセアーズが初優勝、プロバスケットのbjリーグ参入2年目で達成
- 9位 ヨコハマDeNAベイスターズが最下位脱出！
- 10位 瀬谷区の有志による募金で建造した「瀬谷丸」が被災地で進水式

旭区5大ニュース

- 1位 旭区在住「八重樫東選手」がWBC世界フライ級チャンピオンとなり、2度の防衛に成功！
- 2位 希望ヶ丘、二俣川、三ツ境で「ちょい呑みフェスティバル」開催！
- 3位 コミュニティバス「四季めぐり号」の本格運行が開始！
- 4位 「南希の森」が国土交通省都市局長賞を受賞
- 5位 ズーラシアに新エリア「アフリカのサバンナ」一部オープン！

※横浜市のホームページにて、「市民が選ぶ横浜10大ニュース」の投票を受け付けています（12/11正午まで）。結果も公表されます。

古川なおき事務所学生インターンレポート

ある日、旭区役所に行く古川議員に同行し、実際に一緒に旭区の福祉や介護の実情についての講習を受けた。曰く、旭区の要介護認定者数、認知症高齢者数はともに横浜市の全18区中1位なのだという。そして高齢化率は25.4%、これは18区中2位。すなわち、横浜市の中でも旭区はかなり高齢化が進んでいる地域と言えるのである。その原因としては、他区に比べ老人ホームのような高齢者福祉施設が多いほか、高度経済成長期頃より都心部のベッドタウンとして急激に宅地開発がすすめられ、当時区内に移り住んだ方々が高齢化を迎えているという理由が考えられる。まさに今、ニュースで報じられていることの縮図を見たような感じがした。

高齢社会を考えるうえで忘れてはならないのが介護福祉士の問題である。介護士の仕事は拘束時間やその仕事の過酷さに対して報酬が合わないと言われている。例えば、重度障害者や後期高齢者の家を回るホームヘルパーの場合、朝・昼・夕・夜の一日4回それぞれ30分ずつ同じ人のところを訪れて身の回りの世話をし、それを複数の家でやらねばならない。だから休憩らしい休憩も満足に取れず、ほぼ半日働くことになるのだが、それだけ働いても大卒初任給の半分ほどしかもらえないのだと

いう。故に離職率が尋常でなく、現在も満足な数の介護士を確保できていない。偶然事務所を訪ねてきたとある幼稚園グループの方も同じようなことを言っていて驚いたのを覚えている。

こういった急速な高齢化と介護士不足の実情に対して我々市民ができることといえば、この現状の中で発想を逆転させることである。増えすぎだからといって高齢者を減らすことを考えるのではなく、むしろ町ぐるみで福祉に積極的に携わり、増えていく高齢者を受け入れようとしてみたり、介護士が少ないのなら家族のいる家庭なら在宅看護に挑戦して彼らの負担を軽減したりと、状況が厳しいなら厳しいなりに工夫の余地は十分にあると思う。しかしみんながみんなすぐにそれを実行しようとしてくれるわけがない。だからこの実情を把握する人が知らない人に教え、認識を広めていくことも大事なのである。少なくとも私は一切知らなかったし、私の周りの人も知らないと思う。だから知っている人はいつでもすぐに説明できるよう、認識を確かなものにしておくことが重要である。こうするからといってすぐに状況が好転するわけではないが、きっと未来への影響をもたらしてくれるものと信じていたい。

明治大学国際日本学部3年 数住光平



学生インターンレポート共通テーマ

「インターンを通じて感じた社会問題とそれに対してできること」



インターンを通して感じた社会問題は2つあります。

1つめは「他人のために行動する」人の減少です。古川なおきさんは忙しい中自ら駅頭に立ち、経費をかけてもレポートを作成し、日々の活動をしっかり市民に伝えています。偉そうな言い方ではありますが、これが市民の代表である政治家としてのあるべき姿だと思います。では学生ボランティアである我々にとって、駅頭やポスティングにはどのような意味があるのでしょうか？私は駅頭において、利用者が多くどうしても流れ作業になりがちな場合でも、一人一人の目をみてしっかり「渡す」ことを心がけました。朝の駅は下を向いていたり辛そうな表情の通勤者が多いです。しかしあいさつをすることで顔をあげたり返事をしてくれたり、そこを通る人を少しでも明るい気持ちにすることができたのではないかなと思う場面が多くありました。

私の中学高校では、毎朝玄関に校長と体育の先生が立って登校してくる生徒にあいさつをしていました。そのため大きな声であいさつすることに抵抗はなくなったし、あいさつする前に身なりを整えたり、先生が日常のことを気にかけて「あのときどうなった？」など話しかけてくれたり逆に自分から話しに行くとコミュニケーションがうまれたり、受験生のときは毎朝「頑張れよ！」と声をかけてくれてとても励まされました。駅頭となると会話はなかなかうまれません、あいさつのよい効果は身を以て知っています。

7月のインターン初日、古川さんは自分でなく他人のために行動することの素晴らしさを語って下さいました。古川さんのお話を聞いて、例えば消費税が上がったら嫌だから増税しない人に投票しようとか、確かに自分の利益を求めた行動や選択ばかりしていたなあ、と自分を見つめ直す機会となりました。朝は早いし別に古川さんの大ファンなわけでもない、しかし大声で笑顔よく！駅頭は他人のための行動をしているのではないかなと思います。「自己満足」といってしまえばそれまでのことです。

もし、我々の前を通る人に相手を思いやる気持ちがあるのであれば、ただ下を向いて通り過ぎるという行動はなくなるのではないかと思います。相手を思いやることから始まる「おもてなし」を謳う日本ですが、戦時中・戦後に比べ、日々の忙しさに比例して、自己本位である人が増えているのではないのでしょうか。増えているとまでは深く言及できなくともまだまだそのような人は多い、と感じました。

2つめは政治家と市民の距離の乖離です。駅頭では、子供を連れた主婦の方に比べ、ビジネスカジュアルスタイルの若い女性がレポートを受け取ってくれないという印象を受けました。これは政治家と市民の距離に関係すると考えます。インターン活動を始めてから、横浜市の情報や町内の掲示板、そうすると様々なイベントが開催されていたり駅前の看板が新しくなっていたりします。子供がいる母親は公園や小学校など、子育てを通して自分の住む町との関わりを感じられるのではないのでしょうか。他方、自分を含め学生や社会人は関わりを感じにくい環境にあると感じます。メディアで放送されるのはどうしても国会議員の活動ばかりであるため、政治家=国会議員というイメージが自分にもありました。しかし政治とはもっと身近にあるものなのです。

これらの社会問題解決のためにできることは…と考えたのですが、具体的な例はなかなか思いつきません。ただ、若者の行動は目につくものです。例えば駅頭でも「学生が配っているからつい」といった理由でレポートを受け取った人も少なからずいると思います。今回のインターンでは、多くの大きな志を持つ人と出会い、話を聞くことができました。これが自分にとって一番の収穫です。これらをどう吸収し、どう社会で他人に還元していくことができるのか、今後はこれを模索していこうと思います。

明治大学農学部2年 佐藤史奈

古川
なおき
プロフィール



県立希望ヶ丘高校・明治大学 卒業/明治大学公共政策大学院 修了
横浜銀行勤務後、衆議院議員秘書
平成7年4月 横浜市議員初当選(26才最年少)
現在 平成25年 水道・交通委員会副委員長
孤立を防ぐ地域づくり特別委員会
自民党横浜市議員団所属/横浜市F Cキャプテン
希望ヶ丘高校同窓会桜蔭会 理事
旭区サッカー協会顧問/旭区スポーツダンス協会顧問
旭区卓球協会顧問/旭区食品衛生協会顧問

お気軽にご連絡ください。

古川なおき政務調査事務所

〒241-0825 横浜市旭区中希望が丘199-1
E-mail jm@furukawa2002.com
TEL045-391-4000 / FAX045-366-9700

